



令和3年3月16日  
小田原市立下中幼稚園  
文責 久保寺 佳香

幼稚園のオカメザクラが桃色のきれいな花を咲かせました。思わずカメラを持ち出しシャッターを押していると、「見せて！見せて！」と子どもたちが寄ってきました。同じ写真画面を見ている、「この花、きれいだね。」と色の美しさに関心を示す子、「オカメザクラっていうんだ。」と名前に関心を示す子、「下を向いて咲いているよ。」と咲き方に関心を示す子など、気づきが様々で面白いと思います。子どもたち一人一人の興味や関心によって、ものの見え方や考え方が違ってきます。子どもの気づきに柔軟に対応できるよう、私たち大人も感性を磨き続けたいですね。



さて、令和2年度は、子どもたちだけでなく、保護者の方や私たち教師にとっても、今までに経験のない活動に制限がある一年でした。マスクの着用やアルコール消毒、前を向いたまま静かに食べる給食…。子どもが触れるもの全てを消毒し、ものの共有をさせないよう遊びにも制限をしていくことにしました。

しかし、子どもたちはとても柔軟で、新しい生活様式を少しずつ自分たちのものにしてきました。どんな環境の中でも、発見を楽しみ、学びを自分のものにし、友達や教師の刺激を感じながらたくさんのことを身に付けてきました。子どもの成長は、目を見張るものがあり、素晴らしいと感心させられます。小学校に行っても身に付けた力を十分発揮し、新しいこともいっぱい吸収し、もっともっと大きく成長していくことを楽しみにしています。

揺れ動く園生活の中で、子どもたちが笑顔で元気に過ごすことができたのは、何よりも本園の教育に対する保護者の皆様のご理解とご協力の賜と深く感謝しております。2年間、本当にありがとうございました。

## 下中幼稚園 教育アンケート結果

「幼稚園教育の取り組み」についてのアンケートのご協力をありがとうございました。  
結果は、次の通りです。

※対象：下中幼稚園全職員、保護者、下中小学校教員

(1) 下中幼稚園の強み（育ちが見られる項目）は何ですか？

- ①「自然との関わり・生命尊重」
- ②「健康な心と体」

(2) 下中幼稚園の弱み（育ちにくい項目）は何ですか？

- ①「数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚」
- ②「言葉による伝え合い」
- ③「思考力の芽生え」

(1) について

プラス評価が高かったのは、「**自然との関わり・生命尊重**」と「**健康な心と体**」でした。

本園には、緑豊かな自然に恵まれた環境があります。その自然をより身近にするには、子どもたちの自然への気づきが大切です。下中の自然環境を大切にしながら、そこに育まれる生命の尊さを学ぶべき教育課程を計画的に作り上げていきます。

(2) ー①について

一番マイナス評価が高かったのは、「**数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚**」でした。



「中島校長先生のふれあい授業」  
真剣なまなざしで、しっかりと話を聞くことができました。

幼稚園では、日々の遊びの中で、子どもたち自身の必要感から数量に触れていきます。(数を数えたり、重さを感じたり)また、ものの名前を文字にして書いてみたいと願います。このように日々の生活や遊びの中に多くの学びが含まれています。そこで、子どもたちが“ひらがな”を書くためには、私たち教師はえんぴつの握り方から始まり、字を少しずつ認識させていきます。クレヨンなども正しく持って力強いのびのびと絵が描けるようにする経験を十分に積み重ねさせるとともに、子どもたちが数や文字等に関心をもって遊びに取り入れていくことができるよう環境の見直しを図ります。また、小学校教育とも連携を図りながら、子どもたちにとって必要な力を身に付けさせていくことも大切であると考えています。

(2) ②について

**「言葉による伝え合い」**については、いまを生きる子どもたちにとって大きな問題となっています。本園では、園児数が少ない中でも子どもたち同士のかかわりを大切にしてきています。ただ、自分の思いを伝えなくともわかり合えてしまうこともあります。自分の気持ちや考えを、十分に伝えることができるように、まずは自己肯定感をもたせる子どもへの支援や環境の工夫を図ります。

(2) ③について

小学校の先生の回答で一番多かったものが、**「思考力の芽生え」**でした。学年が上がるとマイナスとなっていく傾向も見られました。幼稚園では、その土台を作る大切な時期です。人やもの、ことに出会うとき、「どうしてできるんだろう」「どうなっているんだろう」「できるようになりたいな」という素直な疑問や願いを大切に、そこにじっくりと向き合い、試したり考えたりできるように十分な時間と環境を大切にしていきます。

幼稚園は、子どもたちにとって、集団生活を学ぶ場であると同時に、思い切り自分を表現して遊びを楽しむ場でもあります。やりたいことを思う存分に楽しむ中には、たくさんの学びがあります。子どもたちがどのような体験をし、そこでの関わりを通して、どのような学びをしているのかを分析することで、体験がより豊かなものになるように環境を整えたり、その子の育ちに即した援助をしたりすることができると考えています。皆様のおかげで今年度の課題が明確になりました。ありがとうございました。次年度に向け改善に努めます。



つき組さん、いままでありがとう！

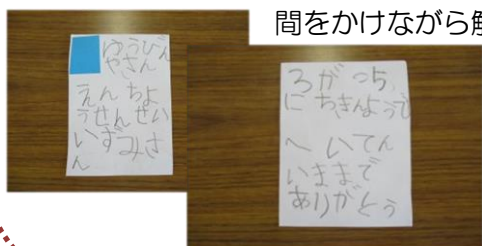
3月3日。つき組の郵便屋さんから1枚のはがきが届きました。

**「3がつ5にちへいてん いままでありがとう」**

12月に年賀状を作ったことで始まった郵便屋さんごっこ。段ボールで窓口を作り、画用紙で作ったはがきの販売をしたり、廊下にある郵便ポストに投函されたはがきを配達することが主な仕事。4人4様で、遊びはバラバラ、途中でプラレール作りに変換！はてさて、この遊びはどうなってしまうかと心配しながら見守っていたところ、子どもたちの心はしっかりと繋がっていて、閉店までしっかりと役割を果たしていました。



3ヶ月という長い期間の中で、それぞれの子が自分なりの目標に向かって考え、意見をぶつけ合い、時間をかけながら解決の糸口を見つけ、みんなで楽しむことができたことに成長を感じ



ます。そして、何よりも、自分だけでなく周りの人のことにも目を向け、気持ちを考え合えるようになったことを嬉しく思います。

「いままでありがとう…」とても素敵な響きに、涙があふれそうになりました。私からも…「つき組さん、いままでありがとう！」